【第１号議案】

【 2022 年度　事業報告　 】

➢総会

2022 年通常総会
【日 時】 2022 年 6 月 18 日(土)
PM14:00 から 15:00 まで
【場 所】 新型ウイルス拡散防止のためオンラインとの併用開催
【出席者数】 全正会員数 22 名 うち 出席者数 5 名(うち委任状出席 10 名)
【議案】
第１号議案　2021 年度事業報告及び収支決算報告の件
第２号議案　2022 年度事業計画案及び収支予算案承認の件
第３号議案　役員選任の件

➢理事会

開催状況
　今期は理事会上程の案件が無かった事と、理事各位のスケジュール調整が困難な事もあり、個別に理事の意見を聞くという事で、理事の意見を吸い上げた。
　第 1 回理事会
【日　　時】　2022 年 6 月　１８日(土)
【場　　所】　オンライン会議
【出席者数】　理事　4 名

➢事務局会議

スタッフミーティング/インドミーティング開催状況
　毎月、スタッフ会議を定例開催した。遠方のスタッフもいるため、オンライン開催と併用で行った。また今年度は支援地とのコミュニケーションを増やし協力関係を強固にするため基本毎月、インドスタッフとも会議を実施した。
＜課題＞
大阪・東京と２拠点でスタッフが点在する形になり、情報共有やオンラインでの意見交換の場を整理する必要があった。3 年前より google workplace や slack 等整備してきたため、問題なく円滑に団体運営を進めることはできたが、使い方の整理整頓やレスポンスルールなど共有が重要

➢コミュニケーション（広報）

■事業の概要
　現地の様子を伝えること、ニランジャナセワサンガの認知度を高めること、イメージアップを図ることを目的として活動した。

■2022 年度の実績と成果
＜実績と成果＞
ウェブサイト

HP のリニューアルを年度中に実施することができた。前の HP の情報をまずはベースに作成し、今後情報のアップデートを随時行う予定。また SNS の更新頻度を増加させ、情報発信の強化を図った。
＜課題＞
・ウェブサイトの適時更新
・ソーシャルメディアの活用方法

➢支援者サービス

■事業の概要
現地情報や活動の様子をもっと知りたいとの声に応えるために発行回数を年間 2 回実施した。
■2022 年度の実績と成果
＜実績＞
（1）サポーターへのニュースレター「ニランジャナ通信」発行
支援者へ現地の子ども達の様子や各プロジェクトの進捗状況、イベントのお知らせなどを兼ねたニュースレターを会員及び協力者に向けて発送した。また、ニランジャナ通信のデザインを社会福祉系の NPO に外部委託し、地域の社会にも貢献協力することと同時に、スタッフの業務負担の改善を行なった。

（2）現地からのクリスマスカード発送
2022 年児童が支援者に対しクリスマスカードを約 200 枚作成し、支援者のもとに郵送した。
＜課題＞
サポーターの方々の現地とのつながりや、会員・運営スタッフ同士のつながりの機会を作ることにより、より団体や活動に親しみを持っていただく必要がある。

➢スタディツアー事業

インド・ビハール州ニランジャナスクールでの授業ボランティアや、近隣の村への訪問などを通し現地の住民たちと触れ合うことで、参加者の見聞を広めるとともに、現地での様々な体験を通じて、児童やスタッフと国境を越えた関係性を築くことを目的としたプログラムである。

■2022 年度の実績と成果
＜実績と成果＞
新型コロナウイルス感染症の拡大また渡航費の高騰により、スタディーツアーは実施できなかった。

➢イベント事業

■事業の概要
イベントへの参加及びブース出店を通し、広く団体の活動を知って貰う。

■2022 年度の実績と成果
＜実績と成果＞
コロナ渦も明け、徐々にオフラインのイベントが開催されることにより、徐々に外部団体との交流の場が増えている。その結果、新たな支援者や企業団体が増えている。

Ⅰ．生涯学習フェスタ２０２２参加し、ブース出展を行なった。
Ⅱ．ワンワールドフェスティバル２０２２参加し、ブース出展を行なった。

Ⅲ．愛地球祭り２０２２参加し、ブース出展を行なった。

➢　研修・セミナーの開催と参加

①大阪市総合生涯学習センターネットワークサロン

日時　　2023 年 2 月 11 日（土）　14：00～16：00

場所　大阪市総合生涯学習センター　第８研修室

内容　　「インドバーチャルツアー」

インドスジャータ村をディベンドラ氏や現地スタッフに案内して頂く。

又その機会に当団体の活動やインドビハール州の状況や教育事情の講演を行った。

②京都府大江高等学校にて特別授業実施

日時　　２０２２年 10 月 21 日

場所　　京都府大江高等学校

内容　　立命館稲盛経営鐵具研究センターの依頼で京都府立大江高校にて代表の山本が講演を行いました。インドでの支援内容と NPO のスタッフでの仕事について講義しました。

③インド勉強会

対象　スタッフ

回数　全 7 回

趣旨　以前理事長をしていただいていた当団体アドバイザーの重松氏よりインドの歴史やフィールドワー

クのやり方など活動に必要な知識を多々ご研修いただいた。

➢内部環境の整備

■事業の概要

今年度、国内スタッフが大阪と東京各地で活動を本格的に始めた。またインド現地のスタッフにも google アカウントを発行し、スプレットシートで進捗の確認や mtg した際の議事録作成など共通の武器として活用した。。また、資金の透明性や会計処理の業務効率を目的に新たに freee を導入した。

■2022 年度の実績と成果

freee とは

個経理業務を自動化してくれるクラウド型（オンライン型）の会計ソフトで、クラウド型会計ソフト

＜課題＞

活動メンバーが増え、部内での活動が増え業務スピードは向上したが、部門間の情報共有が少なくなった。今後より透明性のある団体を目指すため、議事録での会議内容の記録や Slack でのコミュニケーションを徹底するなど、セキュリティー面も考慮した団体運営が必要。また、寄付サイトに関しても、基幹となる団体 HP が未完成であるので、早期に完成させる。

➢助成金の活用

■事業の概要

特定非営利活動法人関西 NGO 協議会と宗教法人真如苑の協働事業で 2022 年実施された関西地域 NGO 助成プログラムの組織基盤強化プログラムに応募しました。現地とのコミュニケーションの活性化を目的に企画立案をしましたが、残念ながら採択されませんでした。しかし、評価委員の方々から、当

団体の存在意義や活動意義について賛同されるお声を多々いただきとても励みになる機会となりました。引き続き団体の組織化、活性化に取り組んでいきます。

➢支援地域での活動

インド①➢学校教育

■事業の概要

「他者への思いやりの心を育てること」を教育の理念とし、現地パートナー団体トラストと連携を取り合いながら、貧困地域において学校教育を提供している。学力向上及び自立支援授業、教科書配布、制服支給、給食配給（週 2 日）をすべて無料で実施。

2003 年よりブッダガヤ周辺の 17 の村々の最貧困層の子どもたちを対象に、学校教育を支援しており、これまでに 17 年間、年間約 500 名の子どもたちに、無償支援。授業料が払えない、制服や教科書を買うことができない子どもたちのために支援を行う。

地域の教育レベルの底上げに力を入れていくと同時に、経済的貧困が理由で進学・就職ができないという子どもたちを支援するために、義務教育の期間を終えるまで、学校教育を提供している。

教育面で特に力を入れているのが、英語、一般教養、そして国際交流である。世界情勢を幅広くとらえ、国境を越えた視野を持つことができるよう、世界各国からのボランティアを受け入れ、授業やワークショップに積極的に参加することで実践的なコミュニケーション能力を培う。学校には、ヒンドゥー教、イスラム教、仏教、シーク教などさまざま宗教背景を持つ子どもたちが一同に学んでおり、すべてのカーストの子どもたちが分け隔てなく一緒に机を並べる。

■2022 年度の成果：

・新型ウイルス拡散防止のため、昨年同様度々休校になった。そのため、現地のスタッフで教科書の配布を行い、電話での質問対応を実施した。合わせて、昨年トライアル実施したオンライン授業を本格的に始動させ、格安スマートフォンを貧困家庭に貸し出しするために、２８台新たに寄付した。

・今後も引き続き学校閉鎖が長期化することを見越し、オンライン授業実施に向けた環境整備や教員研修を行なった。

現在、本校の生徒数は 320 名。ビームスクールが 180 名

＜課題＞

１年間学校閉鎖が国内全土で行われ、富裕層は自宅で高品質なオンライン授業などの手厚いサービスを受け、中間層から我々の支援する貧困地域までがオンラインの授業を受けるためのディバイスがないことや良質な授業を受けられる資金がないことで、今後ますます格差が拡大する可能性が高い。寄付したディバイスの今後の活用方法を検討する必要がある。

インド②➢孤児院（ドミトリー）

■2022 年度の状況：

・日本からの送金だけではやっていけない為、新規の孤児受け入れは行っていない。

インド③➢スジャータ・アシュラム（女性センター）

■事業の概要

女性の地位の向上に向け、家庭の中でも自信や誇りを持ち、強く生きていけるようにと始まったプロジェクト。2011 年にスジャータ・アシュラムが完成。

裁縫教室、メヘンディ教室、ペイント教室、識字教室を実施。

■2022 年度の状況：
チームピースチャレンジャーの支援と生産委託で、仕事としての縫製・収入と技術習得の機会を提供している。

インド④➤植林・有機農業

■事業の概要
乾燥・干ばつ被害が広がるビハール州南部に林や森を取り戻し、生物多様性を回復させるとともに地球温暖化を防止する。また、植林と有機農業の混合実績によりアグロフォレストリー(森をつくる農業)のモデルケースとなることを目的としたプロジェクト。開始から 7 年がたち、マンゴーが実るようになり、その他の木々も順調に育ってきている。植林地を動物侵入による被害から守るため、柵の建設を開始している。有機農業の畑にて、土作りと再耕作を計画した。

■2022 年度の実績と成果
・今年度実施報告なし。

インド⑤➤ウォーターポンプ設置・特別ドネーションの募集

■事業の概要
ニーマ村の水事情が悪く、依然として水を遠方の井戸から運ばなければならない状況となっている。ウォーターポンプ（一口 1 万円）の特別寄付を募集した。

■2022 年度の実績と成果
・2 基周辺の村に寄与

インド⑥➤診療所

■事業の概要
政府の病院では、長時間待つことや、1 人の医師に対する患者数が多いことから質に問題がある。当診療所は、人々の治癒力を向上させるホメオパシー療法を用い、安価な値段で医療を提供している。

■2022 年度の実績と成果
・数回、訪問診療の実施

インド⑦➤CBSE スクール

■事業の概要
ビハール州では、インドの中央中等教育委員会(CBSE)のシラバスに従った良質な教育を受けるためには、高額な授業料を支払う必要がある。スジャータ村周辺の村人で当教育を授受できている人々は限定的であり、彼らも学校が遠方にあるためアクセスコストがかかっている。良質な教育を安価に提供することを目的に、新たに CBSE スクール開校を目指す。

■2022 年度の実績と成果
・周辺の村々において、基礎調査実施。